

(4) 国内大規模大会における事例調査

1. 調査概要

1.1 調査目的

本調査は、国内で開催されている大規模な大会(国民体育大会や全国障害者スポーツ大会など)において、ボランティアの募集、養成、活用状況を詳細に明らかにすることによって、スポーツにおけるボランティア活動の担い手(個人や組織・団体)の要件を整理し、活動活性化のための今後の方向性と「支えるスポーツ」の推進を図るための基礎資料とすることを目的とした。

1.2 調査方法および回収結果

(1) 調査方法

現地訪問によるヒアリング調査

(2) 調査対象

本調査における調査対象は以下のとおりである。

図表 4-1 国内大規模大会を開催した訪問先一覧

大会名称	特徴
長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会	● 「大会運営」「情報支援」「選手団サポート」「学生広報」の4種のボランティアが大会を支援 ● 長崎県ろうあ協会と連携し、手話等のボランティアの育成・研修を図る
スポーツ祭東京2013	● 大会運営ボランティアとして「親子ボランティア」「障害者ボランティア」が活動 ● 東京マラソンのノウハウを活かしたボランティア運営
東京マラソンボランティア	● 「メンバー」「リーダー」「リーダーサポート」の3階層のボランティアで大会を運営 ● 独自のボランティアリーダーの養成・採用・登録制度

(3) 調査内容

- ・基本情報: 大会概要として期間や参加者数など
- ・ボランティア運営の概要: 運営体制やイベント当日のスケジュールなど
- ・ボランティアの種類とその概要: 募集方法や活動人数、研修内容、活動内容など
- ・ボランティア運営における課題
- ・求めるボランティア人材像
- ・その他

(4) 調査訪問日時・場所

- ・長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会

日時: 2014年12月8日 9:30 ~ 14:30 場所: 長崎県庁

- ・スポーツ祭東京 2013

日時: 2014年12月24日 10:30 ~ 12:00 場所: 東京都庁

- ・東京マラソンボランティア

日時: 2014年11月18日 9:30 ~ 11:00 場所: 一般財団法人東京マラソン財団事務所

長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会

- 「大会運営」「情報支援」「選手団サポート」「学生広報」の4種のボランティアが大会を支援
- 長崎県ろうあ協会と連携し、手話等のボランティアの育成・研修を図る

1. プロフィール

(1) 基本情報

長崎がんばらば国体・長崎がんばらば大会(以下、長崎国体・全スポ)は、第69回国民体育大会(以下、国体)と第14回全国障害者スポーツ大会(以下、全スポ)を指す。長崎県の国体の開催は1969年以来45年振り2回目、全スポは初めての開催であった。長崎国体・全スポは県の実行委員会事務局(以下、大会事務局)が所管した。

図表 4-2 長崎国体・全スポの基本情報

大会名	第69回国民体育大会	第14回全国障害者スポーツ大会
期間 (国体は一部の競技除く)	2014年10月12日～10月22日	2014年11月1日～11月3日
選手・監督の参加者数 (正式競技のみ)	113,884人	15,188人
会場地	21市町	7市町
正式競技数	37競技	13競技
公開競技数(※1)	2競技	-
デモンストレーションとしての スポーツ行事数(※2)	18行事	-
オープン競技(※3)	-	2競技

※1 競技の普及や国民のスポーツ振興を目的とし、国民体育大会で実施される正式競技以外の競技(諸条件を満たすことが必要)

※2 原則、開催地都道府県体育協会加盟団体が実施する行事

※3 正式競技以外の競技・種目であっても、広く障害者の間にスポーツを普及するという観点から有効と認められる競技

(2) 大会事務局が所管したボランティアの種類

長崎国体・全スポは大会事務局と国体の会場地となった市町がそれぞれでボランティアを募集・活用している。その内、大会事務局は以下の4種類のボランティアを募集・活用した。

図表 4-3 長崎国体・全スポのボランティアの種類及び概要

	大会運営ボランティア	情報支援ボランティア	選手団サポートボランティア	学生広報ボランティア 「がんばらば隊」
活動人数／募集人数	延べ5,239／5,200人	562／600人	1,098／800人	延べ864人
担当する大会	国体・全スポ	国体・全スポ	全スポ	国体・全スポ
所管	大会総務課	障害者スポーツ大会課	障害者スポーツ大会課	大会総務課
募集方法	一般公募	一般公募 (手話団体等への呼び掛け)	大学、専門学校、 高等学校への要請	主に新入生を対象に、大学生を募集し隊員として登録
活動概要	国体の開閉会式、全スポの開閉会式・競技会及びリハール大会の運営支援	手話、要約筆記(手書き、パソコン)による聴覚障害者の支援	全スポの参加選手団の全般的なサポート	学生による国体のPR。通称「がんばらば隊」

2. ボランティア運営の概要

(1) 大会事務局でのボランティアの運営体制

- ・大会事務局として、大会運営ボランティアと学生広報ボランティア「がんばらんば隊」は、大会総務課の3人(兼務)で担当、情報支援ボランティアと選手団サポートボランティアは、障害者スポーツ大会課で各1人ずつ担当し、ボランティアの周知、募集、登録、研修、配置等を行った。
- ・大会実施本部には、国体が9部21班・全スポが9部19班あり、大会運営ボランティアは要請に応じて国体10班・全スポ11班にボランティアを配置した。配置された班は、受付班、歓迎案内班、報道広報班、会場管理班、入場整理班、医事班、衛生班、シャトルバス班、交通広報班、式典班、競技班(全スポのみ)であった。開閉会式当日のボランティアの各部への調整は、国体総務部総務班が行なった。

(2) 県内13市8町での国体ボランティア運営体制

- ・国体の競技会における大会運営ボランティアについては、会場の市町で募集し運営した。
- ・各市町で状況が異なるが、正式競技を行っている21市町では、合計7,000人のボランティアが参加。地元のスポーツ指導員の団体に依頼する等、ボランティアの一般募集を行わない市町もあった。
- ・開催競技数の多い市では多くのボランティアを募集しており、長崎市で2,000人、佐世保市・諫早市で1,000人の募集を行った。

(3) ボランティア運営スケジュール

○2010年

11月:学生広報ボランティア「がんばらんば隊」を設立

○2012年

11月:大会運営ボランティア、情報支援ボランティア募集開始

○2013年

3月 :選手団サポートボランティアの養成協力校委嘱状交付式

5月 :情報支援ボランティアの一般ボランティア養成講座期間(～2013年11月)

10月:大会運営ボランティアの研修期間(～2014年5月)

企業・大学ボランティアに対する出張研修は2014年9月まで

○2014年

5月 :全スポリハーサル大会(大会運営ボランティア、情報支援ボランティア)

10月:国体にて活動(国体開催)

11月:全スポにて活動(全スポ開催)、国体の報告会開催(後催県を招き情報共有)

12月:「感謝の集い」開催、全スポの報告会開催(後催県を招き情報共有)

3. 大会事務局でのボランティアの概要

(1) 大会運営ボランティアの概要

- ・大会運営ボランティアは、長崎国体・全スポの開閉会式のボランティアである。全スポにおいては、各競技会場での運営も行った。
- ・登録者は4,449人、活動者数は延べ5,239人であった。登録者を性別に見ると、男性が54.8%、女性が45.2%。年代別では、10代(13.6%)、20代(19.7%)、30代(11.7%)、40代(21.1%)、50代(15.4%)、60代(12.5%)、70歳以上(6.0%)で、企業からまとまった応募があったため、40代、50代が多くなった。



大会運営ボランティアの活動の様子

図表 4-4 長崎国体・全スポ「大会運営ボランティア」の概要

募集	
募集人数	国体が1,700人、全スポが3,500人の計5,200人
活動者数	延べ5,239人(登録者数は4,449人)
方法	ウェブサイト登録、又はリーフレットに必要事項を記入し郵送、FAX、持参
条件	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年4月1日時点で12歳以上、中学生以下の申込みは保護者の承諾が必要 ・活動、研修への参加報酬は無償、交通費は自己負担 ・実行委員会主催の「基礎研修」への参加
特典	帽子、ウェア、IDカードを支給し、参加記念章やお礼状を贈呈。昼食は活動時間に応じて必要であれば支給。
研修	
内容	「基礎研修」の参加は必須 主な内容: ①長崎国体・全スポの概要、②ボランティアの活動内容、 ③長崎国体・全スポまでのスケジュール、④コミュニケーション研修、 ⑤全スポの競技内容、⑥障害者への対応
活動内容	
受付・案内	来場者受付、会場案内、資料配布 など
会場整理	観客誘導、座席案内、駐車場案内 など
会場美化	会場清掃、ごみ箱の管理、花の管理 など
会場サービス	弁当配布、ドリンクサービス、車椅子貸出 など
式典運営補助	選手・出演者控所の管理、手荷物預かり など
救護補助	救護所での救護活動の補助 など
運営上の工夫	
	<ul style="list-style-type: none"> ○多様なボランティアの受入れ <ul style="list-style-type: none"> ・協賛企業からまとまったボランティアを確保することができた。 ・希望があれば、障害者(肢体不自由や知的障害など)もボランティアとして受け入れた。 ○ボランティアのモチベーションや満足度の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・募集から活動まで時間があるため、研修や広報誌(年4回程度)を送り、モチベーションを維持した。 ・参加したボランティア(大会運営ボランティア以外も含む)を対象に、大会終了後に「感謝の集い(慰労会)」を開催した。県知事、選手、競技団体関係者、実行委員などが参加し、国体、全スポの記録映像の放映やボランティアの活動報告を行うとともに、懇親を深める場となった。

(2) 情報支援ボランティアの概要

- ・両大会の開閉会式、総合案内所、交通拠点及び全スポのふれあい広場、各競技会場、交通拠点などで、聴覚障害のある選手、役員及び観客に対して通訳や案内業務などを行った。手話、手書き要約筆記、パソコン要約筆記の3種類の方法で対応した。
- ・長崎県では要約筆記で普段から活動している者が必要人数に比べて少なく、人員の不足が見込まれたため、前年度から関係団体と募集や養成の方法などについて議論を重ねた。その結果、手話と要約筆記の活動をしているボランティアで協力し合い十分な活動ができた。また、聴覚障害者も51人がボランティアとして参加しており、地元の話をする等のおもてなしができ、参加者に安心感を与える存在になっていた。

図表 4-5 長崎国体・全スポ「情報支援ボランティア」の概要

募集		
募集人数	国体、全スポ合わせて600人(手話300人、手書き要約筆記200人、パソコン要約筆記100人)	
活動者数	562人(手話396人、手書き要約筆記135人、パソコン要約筆記31人)	
方法	ウェブサイト登録、又はリーフレットに必要事項を記入し郵送、FAX	
条件	2014年4月1日時点で18歳以上、手話は日常会話レベルを有する人、要約筆記は経験者又は関心のある人	
特典	帽子、ウェア、IDカードを支給し、参加記念章やお礼状を贈呈。 昼食は活動時間に応じて必要であれば支給。	
研修		
研修名	時間	内容
①指導者・リーダー養成講座	手話、手書き要約筆記、 パソコン要約筆記で、 ①～③の研修:各14時間	①は一般募集開始前の指導者向け研修会であり、手話の表現を統一するなどの目的で開催
②レベルアップ講座		②～④は以下のとおり ・国民体育大会と全国障害者スポーツ大会の概要 ・障害と障害者の定義などを扱う障害者福祉概論 ・手話、要約筆記についての実務内容やポイント など
③レベルアップ講座Ⅱ		
④一般公募ボランティア養成講座		
	・手話:20時間 ・手書き要約筆記、 パソコン要約筆記:36時間	
活動内容		
	<ul style="list-style-type: none"> ・長崎国体・全スポの開閉会式会場、総合案内所にて手話、要約筆記 ・全スポのみ、ふれあい広場や各競技会場にて手話、要約筆記 	
運営上の工夫		
	<ul style="list-style-type: none"> ○長崎県ろうあ協会と連携した人材養成、リーダー配置 業務の専門性が高いため、計画段階から聴覚障害者団体と連携し、長崎県ろうあ協会に、各種研修、配置を業務委託した。手話、要約筆記それぞれに総括担当者を一人配置し、情報支援ボランティア間の調整や指示を行った。また、普段から手話や要約筆記の活動をしている者を中心にリーダー、サブリーダーを15競技会場に配置した。 ○マニュアルの作成 ・活動の共通化を図るため「情報支援ボランティア 共通マニュアル」を作成 ・内容は、情報支援ボランティアの心構え、当日の流れ、事前準備、業務内容など ○ボランティア同士の連絡網 ・リーダーが声を掛けて会場ごとに連絡網を作成 ・自主的に勉強会を実施 	

(3) 選手団サポートボランティアの概要

- ・全スポに参加する選手団をサポートするボランティアであり、他県からの選手団に対しては、来県してから離県するまでの6日間、選手団と行動を共にし、送迎や誘導、介助、応援など様々なサポートを行う。国体にはない、全スポならではのボランティア活動である。
- ・全スポの前身の大会である、全国身体障害者スポーツ大会及び全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)

の頃から存在しているボランティアで、おもてなしをするという意味で受け継がれている活動である。大会ごとに名称は異なる。

図表 4-6 長崎全スポ「選手団サポートボランティア」の概要

募集	
募集人数	全スポのみの活動で800人
活動者数	1,098人(67選手団13競技に1～5人配置)
方法	医療・福祉系、看護系の学部・学科等がある高校、大学、専門学校へ要請(一般公募はしていない)
特典	帽子、ウェア、IDカード、参加記念章、昼食、交通費
研修	
時期	・長崎全スポ開催の1～2年前から、各学校が養成講座を開催 ・養成講座は専用のテキストに沿って、年間15コマのカリキュラムを基本に各学校ごとに実施 ・オリエンテーションや大会概要については、県の担当者が講義
内容	・全国障害者スポーツ大会の概要 ・障害と障害者の定義などを扱う障害者福祉概論 ・各障害者の特徴や介助技術(肢体不自由の特徴やその人に対する介助技術) など
テキスト	・例年使用されているテキストの電子データが、先催県から後催県へ譲与される ・従来のテキストを参考に、協力校に相談しながら全スポ専用のテキストを作成
活動内容	
	・来県時、離県時に、駅、空港、宿舎で出迎え、見送り ・公式練習の付添い、競技の付添い ・各選手団に県職員のリーダーが配置され、リーダーの指示の下で活動 ・選手の荷物管理、弁当・毛布の配布 ・選手団控所や各競技会場集合場所への案内・誘導、移動介助、情報伝達 ・選手の応援、選手との交流活動 ・ふれあい広場への案内・誘導
その他	
	○ボランティア活動した学生の声 ・今回のボランティア経験を通じて、「将来、障害者福祉関連の仕事に就きたい」、「障害者に対する理解が深まった」という声があり、同様のボランティアがあればまた参加したいという学生が多く見られた。

(4) 学生広報ボランティア「がんばらんば隊」の概要

- ・長崎国体・全スポの広報活動を行う県内大学・短期大学の学生限定のボランティア活動である。各種イベント等で長崎国体・全スポのマスコットの着ぐるみを着て、チラシの配布等、広報活動を実施した。また自主企画として各大学の学園祭等でのPR活動なども行った。
- ・活動は2010年11月から開始し、5年間で199回のイベントにおいて、延べ864人がPR活動を行った。県内の9大学の学生から参加があった。



学生広報ボランティア「がんばらんば隊」

図表 4-7 長崎国体・全スポの学生広報ボランティア「がんばらんば隊」の概要

時期	活動場所	回数	延べ参加人数
2010年～ 2014年	・県民総参加キックオフイベント ・長崎がんばらんばフェスタ(開催決定記念イベント) ・V・ファーレン長崎ホームゲーム ・長崎国体・全スポの開閉会式 等	199	864

4. 大会事務局でのボランティア運営における課題

○ボランティアの人数予測と配置

- ・関係部署と連携を取りながらボランティアの必要人数を見積もる際に、日程調整を含め細かな配置を決めることに時間を要した。活動場所や細かい配置を見据えた募集が必要である。
- ・選手団サポートボランティアでは、各都道府県の選手団の人数が大会直前まで変更されるため、学生の人員配置を決めることが困難であった。

5. 求めるボランティア人材像

○特別なスキルがなくても楽しく活動できるボランティア

- ・大会運営ボランティアは誰もが参加できるように、あえて高いスキルを必要としない活動内容にした。ボランティアが自分に務まるか不安に思っている応募者(特に高齢者)が多く、楽しく活動できるように配慮した。

○手話で日常会話ができるボランティア

- ・手話の情報支援ボランティアは、手話で日常会話ができる者を応募条件にしており、普段から手話サークルで活動している者や市町が開催する手話講座の受講経験者が担った。

6. 大会終了後のボランティアの組織化

○組織化に向けての検討

- ・大会終了後における長崎国体・全スポの大会運営ボランティアの活用及び組織化については、今後、実施するアンケートの回答を踏まえて、方針を決める予定。
- ・2016年に長崎県で全国健康福祉祭(ねんりんピック)の開催が予定されているが、大会事務局が所管したボランティアの活用や運営については未定である。
- ・ボランティアの登録者名簿等の取扱いについても、今後具体的に検討する。

○「長崎がんばらんば隊」の結成

- ・2015年に県広報課において、県政の広報活動等に協力する「長崎がんばらんば隊」を結成。長崎国体・全スポの学生広報ボランティア「がんばらんば隊」のメンバーの中で、今後も協力可能な学生を中心に結成した。

長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会

○事務局:長崎がんばらんば国体・長崎がんばらんば大会実行委員会事務局

○所在地:長崎県長崎市江戸町 2-13

スポーツ祭東京 2013

- 大会運営ボランティアとして「親子ボランティア」「障害者ボランティア」が活動
- 東京マラソンのノウハウを生かしたボランティア運営

1. プロフィール

(1) 基本情報

スポーツ祭東京2013は、第68回国民体育大会(以下、国体)と第13回全国障害者スポーツ大会(以下、全スポ)を指す。東京都の国体の開催は1959年以来54年振り3回目、全スポは初めての開催であった。味の素スタジアムを主な会場とし、都内全ての区市町村が会場となった。スポーツ祭東京2013は実行委員会事務局(以下、大会事務局)が取りまとめ、都の職員は実行委員会の実施本部員と兼務した。

図表 4-8 スポーツ祭東京 2013 の基本情報(冬季大会を除く)

大会名	第68回国民体育大会	第13回全国障害者スポーツ大会
期間 (国体は一部の競技除く)	2013年9月28日～10月8日	2013年10月12日～10月14日
選手・監督の参加者数 (正式競技のみ)	49,302人	15,338人
ボランティアの参加者数	延べ30,538人 (区市町村募集分含む)	
会場地	62区市町村、都外3市町	
正式競技数	37競技	13競技
公開競技数(※1)	3競技	-
デモンストレーションとしての スポーツ行事数(※2)	57行事	-
オープン競技(※3)	-	17競技

※1 競技の普及や国民のスポーツ振興を目的とし、国民体育大会で実施される正式競技以外の競技(諸条件を満たすことが必要)

※2 原則、開催地都道府県体育協会加盟団体が実施する行事

※3 正式競技以外の競技・種目であっても、広く障害者の間にスポーツを普及するという観点から有効と認められる競技

(2) 大会事務局が所管したボランティアの種類

大会事務局は、以下の5種類のボランティアを募集・活用した。区市町村募集分を除き、延べ10,359人が活動した。

図表 4-9 スポーツ祭東京 2013 のボランティアの種類及び概要①

	①大会運営ボランティア			
	一般ボランティア	親子ボランティア	障害者ボランティア	企業ボランティア
登録人数	1,266人	71人	35人	389人
募集人数	3,000人			
所管	企画課事業係			
募集方法	ウェブサイト、リーフレットにて募集	ウェブサイトにて募集	障害者関連団体の協力を得て募集	協賛企業の協力を得て募集
活動概要	開閉会式での受付、会場案内整理等を担当	挨拶、資料配布	受付、清掃	開閉会式での受付、会場案内整理等を担当

図表 4-10 スポーツ祭東京 2013 のボランティアの種類及び概要②

	②情報支援ボランティア	③選手団サポートボランティア	④広報ボランティア /ゆりーとダンス推進大使	⑤映像配信ボランティア
登録人数	482人	1,042人	17人/1,122人	72人
募集人数	540人	1,100人	50人/-	100人
所管	障害者スポーツ大会課		企画課事業係	企画課広報係
募集方法	ウェブサイトにて募集	養成協力校へ依頼	ウェブサイトにて募集 /ゆりーとダンスコンテスト 入賞者を任命	ウェブサイトにて募集
活動概要	大会に参加する聴覚障害者への 手話や要約筆記による通訳や案 内業務	全国障害者スポーツ大会選手団 の出迎え、介助、 案内、見送り	広報PR活動 /ゆりーとダンスの普及	大会開催期間中の 各競技の映像撮影及び配信

2. ボランティア運営の概要

(1) 大会事務局でのボランティアの運営体制

- ・大会事務局では、大会運営ボランティアと広報ボランティアは企画課事業係が所管していた。情報支援ボランティア及び選手団サポートボランティアは、障害者スポーツ大会課が、映像配信ボランティアは、企画課広報係が担当であった。全体の取りまとめは、企画課企画係が担当した。
- ・それぞれの班(図表 4-11 参照)に実施本部員を配置し、ボランティアの出席確認、終礼などを行った。ボランティアが受けたクレームには実施本部員が責任者として対応した。

(2) スポーツ祭東京 2013 ボランティアセンターの概要

- ・スポーツ祭東京 2013 実行委員会は、一般財団法人東京マラソン財団と連携し、スポーツ祭東京 2013 ボランティアセンターの設置・運営を行った。業務内容は、①大会運営ボランティアの募集、登録、配置、研修内容の検討、研修の実施、②スポーツ祭東京 2013 終了後のボランティアの継続的な活動に向けた施策の検討、実施など、③会期中の大会運営ボランティアの受付、IDカードの受渡し、当日欠席・ウェア忘れなどの連絡窓口である。スポーツ祭東京 2013 実行委員会は、一般財団法人東京マラソン財団との連携により以下の効果を期待した。

- ①大規模スポーツ大会でのボランティア運営実績・ノウハウの活用
- ②高い情報発信力による効果的な募集
- ③継続的なボランティア活動の場の提供

(3) 大会事務局でのボランティア運営スケジュール

○2012 年

- 5 月 : 情報支援ボランティア募集開始(2012 年 6 月 29 日まで)
- 6 月 : スポーツ祭東京 2013 ボランティアセンター開設、広報ボランティア募集開始(2013 年 9 月 13 日まで)
- 9 月 : 大会運営ボランティア募集開始(2013 年 6 月 10 日まで)

○2013 年

- 3 月 : 全スポリハーサル大会研修会
- 5 月 : 全スポリハーサル大会
- 6 月 : 親子ボランティア募集(17 日～30 日)
- 6～7 月 : 全体研修会
- 7～8 月 : 希望研修会
- 8 月 : 映像配信ボランティア募集
- 9～10 月 : 国体・全スポにて活動(国体・全スポ開催)



全体研修会

3. 大会運営ボランティアの概要

○活動内容及び参加者の属性

- ・大会運営ボランティアの活動内容は、主に両大会での受付、案内などであり、全スポのみ競技記録の確認なども行った。
- ・大会運営ボランティアの全参加者の属性情報がないため、代わりにアンケート調査結果の属性を報告する。大会運営ボランティアに1日以上参加し、メールアドレスを把握している者1,132人を対象にアンケート調査が行われた。回答数(回答率)は466人(39.4%)であった。性別は男性が59.2%、女性が40.8%であり、年代は、10代(0.6%)、20代(6.0%)、30代(12.0%)、40代(27.0%)、50代(24.9%)、60代(23.8%)、70歳以上(5.8%)であった。居住地域を見ると、7割近くが東京都であったが、関東以外からの参加者も2%程度見られた。

図表 4-11 スポーツ祭東京 2013「大会運営ボランティア」の概要

募集	
募集人数	3,000人
実働延べ人数	2,890人(親子ボランティア、障害者ボランティア、企業ボランティアを含む)
方法	ウェブサイトで登録、又は参加申込書に必要事項を記入し郵送
条件	<ul style="list-style-type: none"> ・2013年4月1日時点で16歳以上、18歳以下の申込みは保護者の承諾が必要 ・リハーサル、活動、研修への参加報酬は無償、交通費は自己負担 ・参加を希望する大会のリハーサル及び研修会に参加できること ・日本語以外の母国語を持つ場合は、日本語の日常会話と読み書きができること
支給品	帽子、ウェア、IDカードを支給
全体研修(別途、希望者向けの「希望研修」も実施)	
内容	<ul style="list-style-type: none"> ①スポーツ祭東京2013について、②スポーツ祭東京2013の概要・活動内容説明映像 ③味の素スタジアムについて、④障害について理解を深める ⑤筆談研修、⑥当日までの流れ
活動内容	
受付班	大会役員、特別招待者、一般招待者、視察員の受付、配席管理、ID再発行、受付誘導
式典班	式典音楽隊の受付、出演者団体の受付、選手団の受付、誘導など
報道班	全国報道員会議の運営、報道受付・控所管理
おもてなし班	ゆりーと広場の管理、都道府県選手応援団の管理、受付、誘導 立川駅や新宿駅での案内所の管理運営など
会場調整班	会場内の清掃、弁当引換所の運営、ドリンクの提供
警備消防班	来場者のID確認、入退場者の案内、迷子・落とし物センターの運営など
輸送交通班	鉄道駅、駅・会場間、駐車場周辺道路、駐車場・会場間における案内誘導
競技記録班	全スポの競技記録の照合、確認、ウェブサイト公開 記録帳票の掲示、配布
障スポ陸上競技班	全スポの記録の確認、入力、主管競技団体が行う表彰の補助 競技終了後の選手の確認、誘導など
リハーサル大会	2013年5月25日～26日に開催された全スポリハーサル大会の運営補助

4. ボランティアの運営上の工夫

- ・東京都独自の取組として、親子ボランティア、障害者ボランティア、映像配信ボランティアがある。特に、映像配信ボランティアは全競技の映像配信を実施した。
- ・大会運営ボランティアの全登録者を対象に、障害者の理解を深める研修を実施した。



親子ボランティア



映像配信ボランティア

5. ボランティア運営における課題

○ボランティアの配置

- ・一日数時間のボランティア活動に対して、需要と供給をうまく合わせて配置をすることが難しい。
- ・経験が豊富なボランティアには、活動の機会を多く与えた方が良かった。

○実施本部員の通常業務との両立

実施本部員向けの研修が2日間あり、通常業務との両立が困難な面もあった。

6. 求めるボランティア人材像

○特別なスキルを必要としない

大会運営ボランティアに関しては、特別なスキルを必要としていなかった。スポーツ祭東京 2013 が、「するスポーツ」「見るスポーツ」「支えるスポーツ」のうちの、「支えるスポーツ」に関わるきっかけになるよう、性別や年代に関わらず、幅広い参加を期待した。

7. 大会終了後のボランティアの組織化

○一般財団法人東京マラソン財団との連携

- ・東京都では、当初からスポーツ祭東京 2013 で集めたボランティアを大会終了後に組織化する計画はなく、大会後のスポーツボランティアの活用は、一般財団法人東京マラソン財団のボランティア組織と連携して進めることとしていた。
- ・大会終了後も、スポーツ祭東京2013で活動したボランティアが継続して活動できるよう、本人の同意を得た上で、東京マラソンのメールマガジンを送付し、スポーツボランティアの情報を提供している。

スポーツ祭東京 2013

○事務局: スポーツ祭東京 2013 実行委員会事務局

※スポーツ祭東京 2013 実行委員会は 2014 年 3 月 26 日に解散

東京マラソン

- 「メンバー」「リーダー」「リーダーサポート」の3階層のボランティアで大会を運営
- 独自のボランティアリーダーの養成・採用・登録制度

1. プロフィール

(1) 基本情報

東京マラソンボランティアは2007年から活動を開始し、2015年に開催された東京マラソン2015の申込者数は11,611人であった。活動日数は最大4日間(東京マラソンEXPO含む)であり、運営主体は東京マラソン財団である。

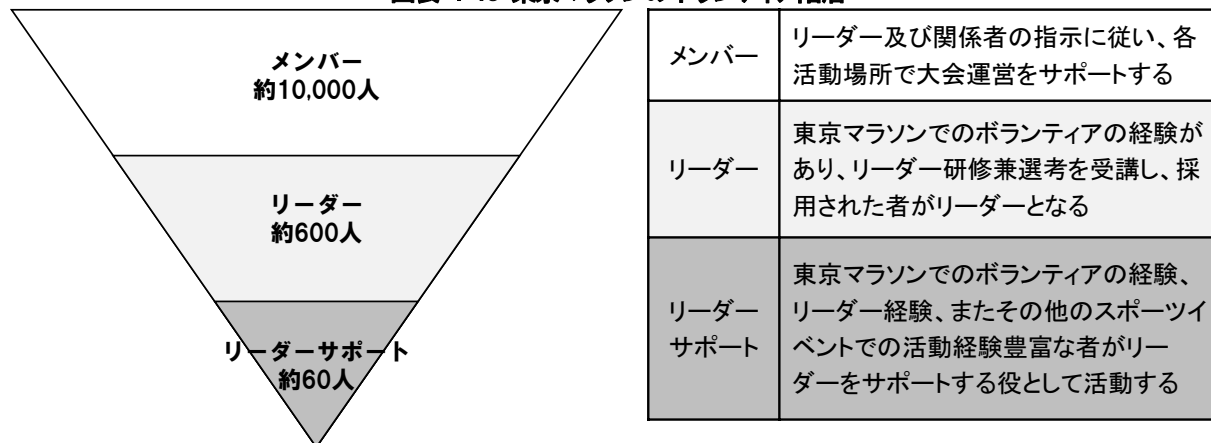
図表 4-12 東京マラソンボランティアの基本情報

組織名	東京マラソンボランティア
活動開始年	2007年
申込者数	2015大会時：11,611人(2014年12月現在)
活動日数	最大4日間(東京マラソンEXPO含む)
運営主体	一般財団法人 東京マラソン財団
組織体制	東京マラソン財団ボランティアセンター
主な活動場所	東京マラソン、東京マラソンEXPO

(2) 東京マラソンのボランティアの種類

東京マラソンで活動するボランティアは、メンバー(約10,000人)、リーダー(約600人)、リーダーサポート(約60人)の3階層で組織されている。

図表 4-13 東京マラソンのボランティア階層



2. 東京マラソンでの活動について

(1) 東京マラソン（東京マラソンEXPO含む）の概要

東京マラソンは2007年から毎年2月の下旬に開催されており、2011年の第5回大会からは、現在の一般財団法人東京マラソン財団が主催している。東京マラソン2015の大会概要は以下のとおりである。

図表 4-14 東京マラソン2015の大会概要

東京マラソンEXPO2015		
日時	2015年2月19日(木)、20日(金)、21日(土)	
場所	東京ビッグサイト	
内容	ランナーの受付、マラソンに関連したグッズの販売など	
	マラソン	10km
開催日時	2015年2月22日(日)	
コース	東京都庁～飯田橋～日比谷～品川～ 銀座～日本橋～浅草雷門～ 築地～豊洲～東京ビッグサイト	東京都庁～飯田橋～皇居前～日比谷公園
制限時間	7時間	1時間40分
定員	35,500人	500人

(2) ボランティアの活動内容

東京マラソンでのボランティア活動は、大会前3日間開催される「東京マラソンEXPO」と大会当日の計4日間が対象となる。東京マラソンEXPOは、3日間で延べ約1,800人(メンバー、リーダー、リーダーサポート合わせて)、東京マラソン当日は、約9,800人(メンバー、リーダー、リーダーサポート合わせて)が活動する。活動場所・内容は以下のとおりである。



©東京マラソン財団
ランナーへ完走メダルの配布

図表 4-15 東京マラソン2015のボランティアの活動場所・活動内容

配置場所	活動場所	活動内容	申込者数
EXPO	東京ビッグサイト	・ランナーの受付 ・ボランティア説明会	1,803人
スタート	東京都庁及びその周辺	・会場誘導 ・出発係 ・給水、給食 ・手荷物預かり など	1,129人
10kmフィニッシュ	日比谷公園	・給水、給食 ・会場誘導 ・手荷物返却	102人
マラソンフィニッシュ	東京ビッグサイト	・更衣室管理(10kmフィニッシュのみ) ・完走メダル配布 ・インフォメーション など	1,415人
コース ※コース42.195kmを9つのブロックに分けて、ボランティアを配置	①新宿・飯田橋、②大手町・日比谷、 ③芝、④品川、⑤銀座・日本橋、 ⑥水天宮・人形町、⑦蔵前・浅草、 ⑧築地・佃、⑨豊洲・有明	・給水、給食 ・コース整理員・距離表示(1kmごと) ・トイレへの誘導 など	7,162人
合計			11,611人

(3) ボランティア申込者の特徴

- ・東京マラソン 2015 への申込者数は 11,611 人(2014 年 12 月現在)、男性が 46.0%、女性が 54.0%である。
- ・年代は、10 代(4.9%)、20 代(13.4%)、30 代(15.0%)、40 代(25.9%)、50 代(22.8%)、60 代(13.4%)、70 歳以上(4.6%)である。
- ・居住地は、関東が 96.7%と最も多いが、東北(0.9%)や東海(0.8%)からの参加者も見られる。
- ・職業は、会社員・公務員が 69.1%と最も多く、次いで主婦(9.8%)や学生(7.0%)の参加者が見られた。
- ・東京マラソンのボランティア経験がある者は 24.5%で、初めての者は 75.5%であった。

(4) ボランティア募集

○メンバーの募集方法と条件

- ・応募者の条件は、15 歳以上(中学生は不可)、指定の場所・時間で活動できること、説明会に必ず参加できることである。ウェアとキャップは支給され、報酬・食事・交通費の支給がないことも提示している。
- ・募集の開始時期は、開催前年の 11 月下旬。専用のウェブサイトから申込みを行う。
- ・先着順のため、募集定員(10,000 人)になり次第終了となる。最近では申込みを開始して、2 日間で定員になり、募集が締め切られてしまう。
- ・「ONE TOKYO」の会員には、事前に申込日をメールで告知している。

<ONE TOKYO とは>

2011 年に設立されて以来、現在では会員数 30 万人を超え、ランニングを愛する全ての人々の健康増進と健全な精神を育み、あらゆるレベルのランナー、ボランティア、サポーターが出会うステージ。ONE TOKYO のミッションであるランニングを愛する人々に生涯にわたって走る喜びを提案する東京マラソン財団が運営しているランニング・コミュニティ。



○リーダー、リーダーサポートの募集方法と条件

- ・リーダー、リーダーサポートは、事前の説明会に必ず参加しなければならない。
- ・リーダー、リーダーサポートで活動するためには、東京マラソン財団が実施する「ボランティアリーダー研修兼選考」を受講し、採用されなければならない(詳細は次ページ参照)。

(5) 説明会・研修

○「初心者のためのボランティア活動セミナー」

- ・開催前年の 12 月に、初めて参加をする者を対象に「初心者のためのボランティア活動セミナー」を開催している。参加は任意である。
- ・セミナー内容は、主に大会概要、大会当日の活動場所や活動内容紹介(映像)、活動上の注意事項(ウェアの着方や活動中の昼食や休憩について)などである。



©東京マラソン財団
初心者のためのボランティア活動セミナー

○ボランティア説明会

- ・東京マラソンの前日に、東京ビッグサイトで活動場所ごとの説明会を行う。マニュアルを使って当日の流れや注意事項を確認し、終了後にウェアとキャップを支給する。
- ・メンバーの参加は必須となっており、説明会に参加しなかった者は当日のボランティア活動には参加できない。

○リーダー、リーダーサポートへの説明会

- ・リーダーへは、開催前年の12月(任意)と翌年2月(必須)に説明会を行っている。リーダーサポートへは、開催前年の10月に説明会を行い、東京マラソン当日まで適宜ミーティングを開き、実務確認を行っている。

3. ボランティアリーダー登録制度について

東京マラソン財団では、東京マラソンでボランティアとして活動した経験のある者を対象に、「ボランティアリーダー研修兼選考」を実施、選考を経てリーダーを採用している。リーダーに採用されると、スキルアップ研修の受講機会や、東京マラソン財団が関わるスポーツイベントで、リーダーとしての活動機会が与えられる。

(1) リーダーの概要

- ・登録者は883人(2014年現在)で、男性が71.7%、女性が28.3%である。
- ・年代は、20代(3.5%)、30代(10.6%)、40代(23.4%)、50代(25.5%)、60代(23.4%)、70歳以上(13.5%)であり、平均年齢は53歳である。
- ・居住地域は、関東が96.4%と最も多いが、中部地方(1.1%)や北海道(0.9%)からの登録者も見られる。

(2) 活動について

○ボランティアリーダー研修兼選考

ボランティアリーダー研修兼選考は例年8月に開催されている。内容は、講義と実技の二部構成になっており、以下の募集条件を満たし、求める人材像に近い者を採用する。

図表 4-16 ボランティアリーダー研修兼選考の概要

開催時期	8月
目的	東京マラソン2015及び東京マラソン財団オフィシャルイベントなど、東京マラソン財団が関わるスポーツイベントにおいて活動するリーダーを選出するための研修兼選考を行う
研修兼選考内容	・講義：リーダーとして必要な知識を学ぶ ・実技：個々のリーダーとしての資質を評価できるような体験型の実習を行う
募集条件	以下①～④全ての条件を満たす方 ①18歳以上(高校生を除く) ②東京マラソンにボランティアメンバーとして参加した経験がある方 ③1年以内に他のスポーツイベントでのスポーツボランティア経験がある方、若しくは会社・大学など団体でチームでの取組をしたことがある方 ④事前課題(200～300文字のレポート)の提出
求める人材像	・スポーツを愛し情熱を持って活動に取り組むことができる方 ・安全第一で活動に取り組むことができる方 ・チームワークを大切にし、活動に取り組むことができる方 ・イベントに関わる全ての人にホスピタリティあふれる対応ができる方 ・選手が最大のパフォーマンスを発揮できるよう大会を支えることができる方 ・ボランティアメンバーを楽しませ自らも楽しみながら活動を行える方

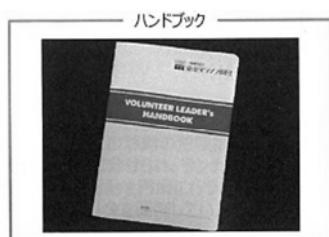
○スキルアップ研修

リーダー向けにスキルアップ研修を提供している。2014年度は、「誰でもできるリーダーシップ講演会」「車椅子の対応」「上級救命講習」「コミュニケーションについて」を行った。

○活動内容

東京マラソン財団が関わるスポーツイベントとして、2012年から開催されているお台場でのランニングイベントや、2013年に開催された「スポーツ祭東京2013」などがある。

○リーダーへの支給品



4. ボランティアの運営上の工夫

○モチベーションの維持

- ・ボランティア申込み時(開催前年の11月下旬)から開催日まで約3か月の期間がある。そのため、メンバーのモチベーションを維持できるように、東京マラソン財団はFacebookを通じて東京マラソンのPR活動や他のランニングイベントの情報を発信している。東京マラソン財団に関する最新のランニング情報を得ることができる。
- ・メンバー向けに開催される説明会では、過去の活動の様子を記録した魅力的な動画を流すことや、ランナーが大会に満足している理由としてボランティアの存在があることなどを伝え、当日に向けてモチベーションを上げる工夫をしている。
- ・東京マラソンが終了した翌日には、完走したランナーからボランティアへ感謝のメッセージが撮影された動画を送っている。ボランティアの満足度向上と継続意欲を高めるツールとなっている。
- ・東京マラソン終了後の同年3月に、リーダー及びリーダーサポート向けの懇親会(反省会含む)を開催している。

○実際に活動できるリーダーの確保

登録しているものの、実際に活動することのないリーダーの増加を防ぐために更新制度を導入している。更新は、1期2年としている。過去2年間に活動実績のない更新希望者には、レポートの提出を求めている。

○若年層ボランティアの確保

若い世代のボランティアを確保するために、大学にポスターを掲示したり、Facebookを通じてボランティアの活動機会の告知を行っている。

東京マラソン

○運営主体: 一般財団法人 東京マラソン財団

○所在地 : 東京都江東区有明三丁目7-26 有明フロンティアビルB棟8階